

帽子&日傘

しまい込んだ古布が息を吹き返し いきいきと装いを彩る小物に

熊本県 今村麻子さん



手描きの幟旗を水に付け色を抜いた古布を使用。絵の色が生地に移り、淡いブルーに。和洋どちらの装いにもあう上品な日傘。



柿渋染めの大漁旗を使った帽子。大きい柄の一部を使っているので、一見大漁旗とわからず、初心者でも抵抗なく使えそう。



柿渋染めにした幟旗を日傘にアレンジ。インパクトのある顔の部分と無地の部分などをバランスよく配置しています。



上の帽子と同じく、大漁旗を使った帽子。波しがきや文字の部分を模様に見えるように工夫して生地取りをしているそうです。

2004年に今村一秀さん、麻子さんご夫婦が始めた手づくり作品の販売店「なごみ屋」（熊本県熊本市）。当初は現代の布を使うものが多かったのですが、徐々に古布作品へと変化していき、また。「同じものを作ったとしても、古布を使ったものの方ができあがりがいいんです。これは布がもつ力ですよ」と麻子さん。洋服やバッグ、日傘、帽子などさまざまな商品が並びます。持ち込まれた古布を希望の品にアレンジすることも。日傘、ポーチ、印鑑入れなどのオーダーを受けています。「特に日傘が人気ですが、この間は古い着物でカーテンを作りました。『筆筒に眠っていた着物を毎日目にできるのがうれしい』と言っていただけ、私もうれしくなりました」と麻子さんはっこり。誰かの大切な古布を使い丁寧に縫い上げる作品に、新たな命が吹き込まれる——古布作品の一番の魅力を改めて感じる事ができました。

今村〇〇さんのショップ「なごみ屋」のサイト (<http://7538.jp/>)

今井さん流・古布帽子&カサの楽しみ方

着こなしのアクセントに
小物から取り入れて

洋服で古布を取り入れるのは抵抗がある方でも帽子や古布ならきっと気負いなく使えるはず。と言っても、布の面積は大きめな小物なので、着こなしのアクセントになります。



大島紬をバッグ仕立てて。シックな色合いの生地に、折り紙のようなモチーフをあしらひ、華やぎを添えています。

淡い色あいの日傘を
古布ファッションと
コーディネート

子ども用の着物だった緋をアレンジしたツーピースに草木染めのストールを巻いて。幟旗を使った日傘は主張が強くなく、初心者にもおすすめ。

プロフィール



今村麻子さん

自分の洋服を作っていましたが、素材のよさにひかれ、古布作品を作るように。「見た目美しく、縫い目をきれいに」と語る、丁寧な仕事の評判です。



手前は幟旗で作った長財布。柄が細かい部分を選び、小物ですが幟旗とわかるように。緋のポーチは旅行時の物入れに活用。

イベントの時には
目を引くデザインの
古布をまとして

ご主人の洋服も麻子さんのお手製。ベストは大漁旗、ジーンズは幟旗を使っています。春と秋に行うイベントでは大胆な古布の服を着るのだそう。

